

＜校務利用＞ ②⑥ 校務支援に向けた利用

○目的 生成AIを活用した校務利用について

○利用内容

- ① アンケートの集計 ② 文章のたたき台作成
③ 授業やテスト案の作成 ④ プログラミング言語の確認

○生成AI活用のポイント

①に関して。本学園ではMicrosoft Formsを利用したアンケート調査を活用している。特に学校評価や学習評価、学校生活アンケート等。

アンケートの集計において定性評価の集計は情報力が多く集計に時間を要していた。その際に生成AIのテキストマイニングやChatGPTにおける集計を利用することでアンケート集計に要する時間を短縮できている。

②に関して。文書作成において特に若手の教職員を中心にどのように作成すればよいか分からず負担に感じている。その際、どのような形式の文書にすればよいのかを生成AIを基に作成した。また、本学園の生成AI利用に関する同意書においても生成AIを基に作成している。

③に関して。授業の展開案やテスト作成に関する素案として利用している。複数の案を短い時間で提示できることにより教材研究等の効率化が実現できている。利用時には根拠となるURL等を生成AIに示すようにプロンプトを工夫することでより正確な素案として利用することができている。

④に関して。様々な情報処理でMicrosoft Excelを利用していることが多い。特に関数式やVBAにおけるプログラム言語確認に利用している。

○生成AI活用における成果と課題

生成AIを利用することで、情報の収集や整理に要していた時間を削減することが可能になった。一方で、校務では様々なプライバシーに関する情報を処理していることから情報の流出に十分留意する必要がある。また、教職員も生成AIから得られた情報が正しいかどうかを判断する力も必要である。

Excelで標準正規分布を出す方法



標準偏差を用いて、ある値がどれくらい確率的に現れるかを計算します。

2. NORM.DIST関数を使った正規分布の確率密度の計算方法

- NORM.DIST(×, 平均, 標準偏差, 関数形式) の形式で使用します。
- × は確率変数の値、平均 は平均値、標準偏差 は標準偏差、関数形式 はTRUE（累積分布関数）またはFALSE（確率密度関数）を指定しま